

# 龍源寺報

平成29年 春彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覺樹	正福寺住職 松原行樹
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)  
 Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

## わが師の「老いと死」

—「生涯修行、臨終定年」を掲げて

松原 信樹

松原泰道師は、二十代から師父である松原祖  
 来和尚（龍源寺十五世）の影響もあつてか、臨  
 濟宗妙心寺派の布教師となり、布教人生は、遷  
 化する数日前まで続くことになる。「生涯修行  
 臨終定年」をモットーとし、毎朝三時に起きて、  
 書齋の近くにある内仏で大きな声でお経を読み、  
 勉強をする生活を生涯貫いた。何時に何をす  
 か、何がどこに置いてあるかが全て決まってい  
 たし、食べる物も全て決まっていた。師父・松  
 原哲明和尚（龍源寺十七世）は語る。

母の追慕の会で師父（松原泰道）は、今  
 あるのは母・静子のおかげと涙した。公の  
 場では初めての言葉であつた。…それが乾  
 く間もなく、二十二日後に、母に招かれた  
 ごとくに、百二歳の幕を下ろした。母は、  
 大正生まれのどこの女性とも同じく、自分  
 を顧みる時を捨て、家族を養い育てた。夜  
 中に、嫁入りの和服を風呂敷に包み、米塩

の資に代えるため部屋を出る後ろ姿が、黒  
 い切り絵のように焼き付いている。

父はいつも講演か、あるいは小さな書齋  
 に居た。誰が何といおうと、時間と競うよ  
 うに、まなびやに潜んでいた。自分の道を  
 ひたすら生きた師父は、やがて無量の種を  
 自らのものとしていった。師父の後半は、  
 自在の説法であつた。無限の種をまき続け、  
 法悦に浸らせ得たのであろう。

〔中日新聞〕・人生のページ 二〇〇九年十月  
 三十一日号掲載）

『般若心経入門』がベストセラーになったの  
 は、六十五歳のとき。知人達が第一線を退くの  
 と入れ替わりに忙しくなった。その背景には、  
 妻・志ず（静子）の献身的な姿があつた。以来、  
 著書は百三十冊を越える。「老いと死」につい  
 て、師は、晩年、仙厓（せんがい）禅師のエピソ  
 ードを引き、次のように述べている。

仙厓禅師の死に際、弟子たちは遺言を求めた  
 ところが、仙厓は「死にともない」と言つた。

（次ページへ続く）

慌てたのは弟子たちで、「ご冗談ではなく、本当のことをおっしゃって」と再び求めると、「ほんまに、ほんまに死にともない」と言ったそうです。この逸話を知って、私もすーっと気が楽になりましたね。誰でも死にたくない。死にたくないけれど、そういう未練を残している者こそ救われていくんだという深い教えがそこに出てきます。痛ければ「いたーい、いたーい」と叫べばいい。悲しかったら「あーん、あーん」と泣いたらよろしい。死ぬ間際まで格好いい言葉を残そうなんて色気を出すことはありません。生きるときは精いっぱい生きて、死ぬときはお任せする。それが禅の生き方なんですよ。（『日本経済新聞』夕刊平成二十一年二月十二日号掲載）

師は晩年、よく「生きつつあることは、死につつあることだ」と語っていた。つまり、私たちが普段生活をしていると、生きている「生」だけが、未来に向かって進んでいると思うが、実

は「死」というものも、「生」と共に表裏一体になって、進んでいるということ。「いま」「ここ」「自分」を地に足をつけてしっかり生きていくということを、毎日の生活から学ばせていただいた。遷化の年の正月、書き初めで揮毫した「生ききる」という色紙を今でも私は大切にしている。そして、師の書齋を整理していると、遷化の五年前、平成十六年元旦に、弟子達に『遺詩』を遺していた。それは、きちんとして、袈裟・法衣・草鞋・脚絆とともに柳行李の中に収まっていた。

#### 遺詩

私が死ぬ今日の日は  
わたしが彼土でする  
説法の第一日です

衆生無邊誓願度  
佛道無上誓願成

平成十六年元旦誌之

泰道要明 花押

「生涯修行、臨終定年」を掲げた師の仏法の種まきは、孫の世代に受け継がれ、師の遷化後も続けられている。再び、『遺詩』を読んで、今年、四十半ばで、本山の布教師・巡教師に任命された自分にとって、全身にありあまるほどの恩恵をいただいております。日々を怠惰に過ごしていることへの反省にもなりました。今後とも、折りにふれて、師の書いた本を読みたいと思う。そして、多くの方に師の警咳に触れていただきたいと思います。（『大法輪』平成二十九年三月号掲載）

#### 住職新刊

『やさしい禅の教科書』

PHP文庫

定価七二〇円

（税別）

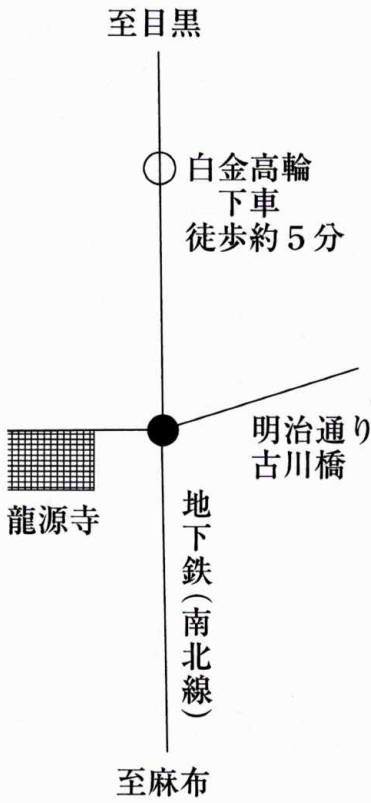
# 観音さまへ

金五万円也 森山英一殿

金三万円也 勝田明子殿

ありがとうございました

\*将来は、借地を整理し、『大般若経』を納める経蔵建立など、境内整備をする計画をしております。



## 春彼岸会

左の通り行います。ご家族そろってお参りください。

一、三月十九日(日曜日・午前十一時より)

一、導師 正福寺住職 松原行樹師

一、読経

一、法話

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

## 龍源寺への交通の便(地下鉄)

### ● 都営三田線

(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)

● 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

## 龍源寺への交通の便(都バス)

● 田 87 渋谷駅—田町駅 魚ラン坂下下車

● 都 06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車

● 品 97 品川駅—新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車

● 反 96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ(循環)

魚ラン坂下・古川橋下車

● 東 98 東京駅丸の内南口—目黒駅 魚ラン坂下下車

柳 緑

春彼岸会を迎えます。皆さま  
お元気で過ごしましょうか。

花 紅

三月九日から二十一日迄、岐  
阜県美濃加茂地方、下呂地方  
奥飛騨地方に本山の巡教で

かけます。「巡教」とは、全国各地の妙  
心寺派寺院の檀信徒の皆さまに、本山の  
推進テーマに沿って布教させて頂くもの  
です。お檀家さまの中には、地方にある  
菩提寺さまが、東京にある龍源寺を紹介  
したというケースがあります。それは、  
長年、泰道和尚と哲明和尚が巡教にでか  
けた縁によるものが多いと思います。そ  
のため、毎年春分の日には春彼岸会の法要  
をさせて頂いてたものを、今年に限  
り、三月十九日に、日にちを変更させて  
いただきましたと思います。導師は、弟で  
ある円覚寺派正福寺住職・松原行樹師に  
していただきます。宜しくお願い申し上  
げます。▼PHP研究所より『やさしい  
禅の教科書』を監修させていただきまし  
た。私自身が仏教や禅についてどれだけ  
本当のことを理解しているかを確かめな  
がらの執筆となりました。引用の取捨選

択に気をつけながら、しかも、原典にあ  
るものをそのまま曲げないように書いて  
みました。わたしとしては、思いの入っ  
た一冊になりました。多くの方々に変  
お世話になりました。心から感謝申し上  
げます。現在は、転法舎『臨済宗のしおり』  
を執筆しております。どのような方が目  
を通すかわからないため、毎回、自分の  
仏教や禅に対する考えの練り込み方のレ  
ベルを試されている怖さを感じます。▼  
二月十日に母の実家である北鎌倉・雲頂  
庵にて、祖母(母の実母)の百歳の誕生  
会を行いました。娘の瑞樹も参加し、○  
歳七ヶ月と百歳が同席する宴となりまし  
た。また、義理の父より、ひな人形をい  
ただきました。男性が多かった松原家で  
すが、今は女性の中に男が一人という状  
態です。妻の亜矢には、子育てとお寺の  
仕事を一生懸命してもらっています。授  
乳のため三時間おきに起きています。実  
際、ベビーカーで都バスや地下鉄に乗っ  
てみると、子供が授かって初めて知る  
こともあり、日々勉強です。母も元気に  
しており、瑞樹をみてもらっています。

▼毎回申し上げていることですが、お檀  
家さまで、お葬式をだされる場合、僧侶  
がないと、お葬式ができないゆえに、  
まず、一番始めに龍源寺にお電話をお願  
い申し上げます。始めにお電話をいた  
けることによつて、色々なことをお伝え  
できると思います。インターネットの情  
報だけが情報ではありません。また、葬  
儀社も信頼のある葬儀社を紹介させてい  
ただきます。丁寧な仕事で皆さまに喜ば  
れています。渋谷区広尾にある東北寺内  
龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を  
気にしなくてもよい永代供養塔です。龍  
源寺の規則を守っていただければ、ど  
んでもこのお墓を使用できます。▼違反  
駐車が多いため、門に車止めを置いてお  
りますが、お檀家さまは、お手数ですが、  
車止めをよけて車両を境内に入車させ  
てください。▼三月十九日、午前十一時より、  
春彼岸会を厳修致します。三月十八日、  
十三時より、二百人分のちらしずしの野  
菜のきざみを行います。ご都合のつく方  
お手伝いをお願い申し上げます。初めて  
の方の参加も歓迎いたします。(信樹)